

## ○ 協働事業の概要

記入年月日 平成28年2月29日

事業名	協働のまちづくりに関する講演会とディスカッション
団体名	小平市自治基本条例市民の集い
担当課名	市民協働・男女参画推進課
事業期間	平成27年11月18日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

①地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

「居場所づくり」は、今後より一層多様化・複雑化すると考えられる地域の課題に対し、より細かく・丁寧に課題の解決を図るための効果的な手法であると考えられる。団体からの報告にもあったとおり講座を一回開催しただけで何か解決するという問題ではないが、まずは市民や職員が「居場所」について知ることが大切であり、その目的は達成できたと考える。また、単なる「居場所づくり」に関する講座ではなく、特色のある「居場所」について講演をいただけたことや、市民や職員がお互いの立場を主張したうえで居場所づくりに関するワークを行えたことは非常に有意義であったと考えられる。

②団体の長所を、発揮させることが出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。)

団体に「居場所づくり」に対する地域の課題や市民の主張を提示していただくことで、行政単独の企画に比べ、より現実的・具体的な企画を立てることが出来た。また、当該団体は小平市が自治基本条例を制定する前から活動を行っている団体であり、団体としての主張はもとより構成員一人ひとりがはっきりとした主張や意見を持っており、今回特に「居場所」についてワークを行ったが、自治基本条例を研究する中で培った知識や経験を十分発揮していただくことができた。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

自治基本条例の制定に関わった団体であり、行政の立場や事情を把握した上で企画等を提案していただいたため、非常に良い関係性を築くことができた。行政としても団体の主張や考えを率直に伝えていただけるよう配慮は出来たが、当日の集客対象など、団体の希望に沿うことが出来なかった部分もあった。

④改善提案がありますか。

広報の対象や細かいスケジュールなど行政側の事情に左右されやすい項目について、行政が予め文書等で団体に示しておけば、団体も期日から逆算して動くことができる。いきいき協働事業を行う上で団体に伝えておかなければならないことのフォーマット等があれば、より効果的な事業が行えると考えられる。

自由記載欄

特になし。